

臨床報告

自己膨張式Air-Q[®]sp3Gを用いて 自発呼吸下に麻酔管理した症例



兵庫県立西宮病院
(現:兵庫県立西宮総合医療センター)
麻酔科医長

古賀 聡人先生

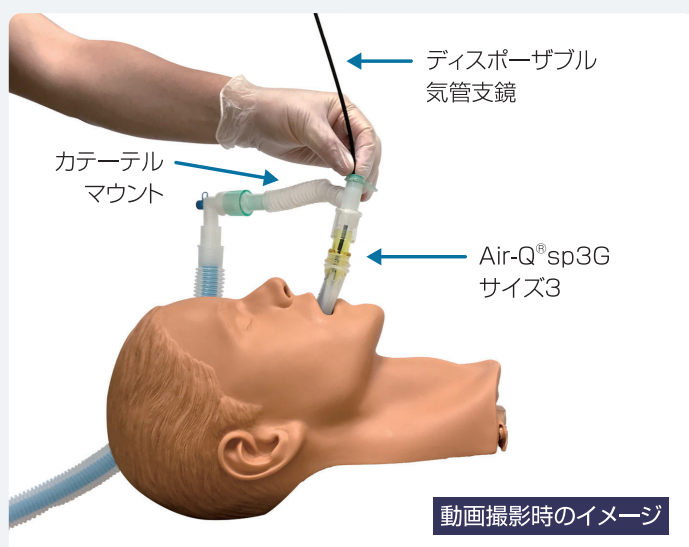
厚生労働省麻酔科標榜医
日本麻酔科学会指導医
日本専門医機構麻酔科専門医
日本集中治療医学会集中治療専門医
日本救急医学会救急科専門医
日本区域麻酔学会認定医
日本区域麻酔検定試験(J-RACE)合格

症例情報

症 例: 70歳台女性
病 名: 脛骨高原骨折
術 式: 関節内骨折観血の手術
手術時間: 27分
麻酔時間: 1時間37分
換気モード: 自発呼吸

動画撮影時の使用デバイス

- Air-Q[®]sp3G サイズ3
- カテーテルマウント
- ディスポーザブル気管支鏡



動画撮影時のイメージ

術中管理や術後経過

導入前に坐骨神経・後大腿皮神経・伏在神経に対し神経ブロックを行った。フェンタニル、プロポフォールを投与し、下顎を持ち下げて開口した際に体動がないことから十分な麻酔深度であることを確認し、Air-Q[®]sp3Gを挿入した。セボフルランで麻酔を維持し、呼吸数が1分間に10回程度となるようフェンタニルを少量ずつボーラスすることで体動なく手術は終了した。完全覚醒でAir-Q[®]sp3Gを抜去し、気道の開通を確認後、病棟へ帰室した。術後は疼痛の増強なく、早期に自宅退院された。

コメント

声門上器具は気管挿管と比べて咽頭痛や嘔声を軽減し、挿入時や抜去時の循環変動も少ない。自発呼吸との同調性も良好であり、自発呼吸で管理すると術中の麻酔維持を最適化でき術後の回復を早めるため、四肢や体表の手術で筆者は好んで使用している。自発呼吸を温存した全身麻酔管理を習得すると自然気道での鎮静管理にも応用でき、麻酔の幅が広がる。Air-Q[®]sp3Gは数例経験したのみだが、フィッティングが良好で入れ直しを要さなかった。陽圧換気ガスを利用した自己膨張式のカフは陽圧換気を念頭に置いた製品だが、自発呼吸管理において問題はなかった。

動画

① Air-Q[®]sp3G挿入直後 ② 自発呼吸下での換気の様子



※①～②をクリックすると動画の視聴が可能です。
※再生時には「ブラウザ」を選び再生を行ってください。

一般的名称: 短期的使用口腔咽頭チューブ 販売名: air-Q3 シングルユース
医療機器認証番号: 304ADBZX00077000 クラスII
機能区分 (1)カフあり (2)カフ上部吸引機能なし

製造販売元



株式会社 インターメド ジャパン

<http://www.intermedjp.co.jp/>

本 社: 〒541-0045 大阪市中央区道修町1丁目6番7号 JMFビル北浜01 14F
TEL (06) 6222-1951 (代)・FAX (06) 6222-1950

